

知ってますか

変異型
ヤコブ病

BSE（狂牛病）感染牛の危険部位を食べることによって感染。性格変化や認知症から運動マヒに至り死亡する難病。英国を中心にこれまで150人余が発症している。昨年12月死亡した男性（89年英国に1ヵ月滞在）が、日本初の変異型ヤコブ病と診断されたことで、厚労省では患者発生の早期届出や二次感染防止の徹底を通知している。

知ってますか

脱法ドラッグ

麻薬同様の幻覚作用を持つにもかかわらず法律の規制外になっている薬物。繁華街やインターネット上で公然と売買されており、若者を中心に汚染が拡大。国が対策を検討している。麻薬取締法が規定する麻薬は約140種類。脱法ドラッグは、これらの麻薬と化学構造がわずかに違うだけで効果は同じ。犯罪を誘発したり、依存症など深刻な健康被害に結びつく例もある。

情報BOX

■検証「三位一体の改革」 自治体から問う地方財政改革

平岡 和久・森 裕之 著
自治体研究社 発行

地方交付税の圧縮はどのように行われ、2005年度の影響額はどうか（財政シミュレーション）…。真の地方財政改革への展望を探る。



A5判
196ページ
定価2100円
(税込み)

■「住民主権の府政へ —『大阪府行財政計画(案) 2004年版』批判—

森 裕之・中山 徹・柏原 誠 著
社団法人 大阪自治体問題研究所 編

4度目の再建案になる「2004年版」は大阪府の財政を健全化し、府民の暮らしを向上させるのに役立つのか。

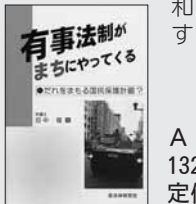


A5判
68ページ
定価476円

■「有事法制がまちに やってくる だれを まもる国民保護計画？」

弁護士 田中 隆 著
自治体研究社 発行

有事法制・国民保護法のもとの地方自治体や住民の非戦・平和の道筋を模索する。



A5判
132ページ
定価1500円+税



石油省前での米兵と子ども。この時点(2003年11月)でも緊張は高まっていた。

自衛隊の撤退が、戦争を止める第一歩

イラクの市民と子どもたちを救ってください

—今回の来日目的は？
イラクで何が起きているのか、毎日いたるところで爆発があり、罪なき人々が殺されていく実態を、日本の皆さんに知ってもらいたかったからです。2月24日には、大阪地方裁判所で証言しました。私自身が「イラク派兵差し止め裁判」の原告だからです。
—日本のメディアがイラクにいない中で、私たちの想像を絶するようなことが行なわれているのだと思います。先日イタリヤ人女性ジャーナリストの車が米兵に撃たれ、同乗していた政府高官が殺されました。
イラクではあれが日常茶飯事なのです。ジャーナリストであるかどうか、テロリストか一般市民か、そんなこと構いなしに、「ただ戦車に近づいただけ」で、米兵は撃つてきます。私の近所の人々も多数、米兵に殺されました。彼らはテロリストでもなんでもなく、普通の市民でした。
—日本大使館員2人がテイクリフトで殺された事件がありました。あれも一部では「米軍の誤射ではないか」と言われています。
私はあの事件後、現場へ急行しました。現場にいた証人に「ここで日本人が撃たれた

る」と聞くと、「いや、ここじゃない。俺は何も知らない」と答える。不思議に思い、イラク警察まで戻り、もう一度現場を確認すると、やはり同じ場所に連れてこられました。
—なぜ、本当のことを言わなかったのでしょうか？
アメリカ軍、イラク警察を恐れているのです。本当のことを言うと、警察や米軍に捕まってしまう可能性がある。私はテイクリフトの人々にとっては、「よそ者」なので、信頼してもらえなかったのでしょうか。だからあの事件は「怪しい」と思います。
—サマワに自衛隊が送られて1年以上たちますが、イラク人は自衛隊をどう見てますか？
サマワは小さい都市で、イラク全体から見ればほんの一部です。給水活動や学校のペンキ塗りなどをしていようですが、なぜイラク全体を救ってくれないのか、と感じます。それと今のイラクに必要なのは、ガンの薬であり、爆発で傷ついた人々への手当です。「人道支援に来た」というのであれば、そういうことをすべきです。
—イラクの人々の暮らし、特に子どもたちの様子は？
最悪の状態が続いています。病院の医師にインタビューしましたが、「サダム・フセインの時代の方が良かった」といいます。国連の経済制裁で、薬や食料が入らなかった時代よりも悪い。今は治安悪化で、あの時より薬が不足しています。米軍の空爆や誤射、自爆テロなどで、毎日人々が死に、傷つくと、病院のベッドが足りません。イラク選挙の期間、学校が投票所でした。だから学校を狙ったテロが続発し、子どもが巻き添えになりました。現在、机も椅子もなく、1教室に100人が詰め込まれて勉強しています。もちろん教科書も満足にありません。先生が手書きで書き写し、それを使っている状態です。
—日本政府に求めること、また日本の労働

戦車に近づいただけで 米兵に殺される——

「イラクの子どもを救う会」が招いた、イラク人、ハッサン・アボッドさんが、現在来日中です。TVや新聞では、なかなか伝わらないイラク戦争の実態をインタビューしました。(聞き手・樋口和弘編集長)



ハッサンさん(左)とイラクの子どもを救う会の西谷さん

ハッサン・アボッド氏 プロフィール
1966年 イラク、バビロン州ヒッラ市生まれ。バグダッド大学を卒業し、イラン・イラク戦争に従軍し、九死に一生を得る。フセイン時代フリーライターとして活躍。2002年から日本の岐阜大学に留学。イラク戦争終了後、イラク・バビロン市に戻る。2003年 イラクで数多くの罪のない市民が殺されていくのを目撃。2005年 アメリカの戦争犯罪を訴えるために来日。

現地ルポーイラク戦争の実態をハッサン・アボッドさんに聞く

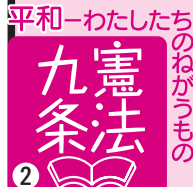
組合に求めることは？
日本政府には、犠牲になったイラク人のことを考えてほしいと思います。各地で米兵に殺され、自爆テロが頻発するようになったのは、「アメリカの占領が始まってから」です。フセインの時代には爆発はなかったし、人々は少なくとも殺されたり傷ついたりしなかった。だからアメリカに「占領をやめよ」と言っしてほしい。人道支援なら、まず病院に薬や医療機器、ベッドを。次に学校の整備を。
日本の労組には、貧しい人々への援助をお願いしたいと思えます。多くの人々が失業しています。子どもたちは学校へ行くことができずに、闇市でガソリンを売ったり、通りで新聞を売ったりしています。こうした人々に仕事を、子どもたちが学校に行けるような援助をお願いしたいと思います。
—アメリカ軍を撤退させるための第一歩として、自衛隊を撤退させなければなりません。イラクの人々への本当の人道支援が何なのか、よく分かりました。今後イラクと日本の連帯を深め、平和運動を進めたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

「禁止されているのにパチンコでの換金が公然と行われたり、売春禁止法があるのに援助交際が行われているなど、法と現実の乖離が見られる。これと同じ様なことが憲法にもある。自衛権の言葉すらないのに、自然権としての自衛権があると解され、自衛隊という組織を持っている…私はこうした憲

法のあいまいさを取り除き、誰もが納得できる憲法に変えていきたい」——2月9日、外国特派員協会の講演で民主党元代表の鳩山由紀夫衆院議員が論じた。ギャンブルと売買春、自衛隊を「法と現実の乖離」の例として同列に扱う鳩山氏だが、この論法で「自衛隊を憲法上認めろ」と主張すると、「法と現実の乖離

があるから賭博や援助交際も合法に」となるのだが…。

◇
2月号から始めた当コーナー。おはがきをいただいたので紹介します。「先日、同じ職場の方が手作りキルトのポシェットをさげていました。そのポイント(ボタン飾り)のように「かがやけ9条」のパッチをとめていて、それがまたポシェットの色合いとマッチしてとても素敵でした」みなさんのおたよりお待ちしております。



「援助交際と改憲の関係」

民主党元代表 鳩山由紀夫衆院議員の発言に改憲論者の心根をみた